

オーディオと私



大塚 祐司

❖オーディオ機器と共に

数年前より当クラブのサイトで活動場などを閲覧させていただいておりましたが、2013年11月よりお仲間に加えていただきました。今回、会報への投稿の機会をいただきましたので、現状など紹介させていただきます。

小生、現在は茨城県牛久市に在住しておりますが、出身は東京都大田区で江戸っ子6代目だそうぞうです。

現在はオーディオを主な趣味としておりますが、この趣味は2度目というか、アンプはアキュエース、スピーカーはJBLと王道を極めたところで1986年にオーディオから完全に手を引いた後、20数年を経て2008年に復活したものです。その間は仕事や子育てに翻弄され、趣味どころではなかった。なんてことはなく、子供が出来るまでビデオ撮影を趣味とするようになり、最終的には自作の市販ビデオ作品を5作品ほどリリースして、この趣味に満足して終焉としました。

その後6年ほど車の内装品や電装品の改造という趣味(こちらも改造ネタが専門誌に紹介されたことで一応終焉)を経てまたオーディオに帰ってきました。

オーディオ復活のきっかけは、レコード、テープ等を処分するために、よりコンパクトなメディアに移し替える名目でオーディオ機器を使いたしたことでした。久しぶりにレコードやテープなどを聴いているうちに、かつてのオーディオ熱が蘇りました。

結局、レコードは1枚も廃棄することなく、現在では倍以上に増えております。再開に当たり、ビデオ編集用の最低限の音響機器しかなかったため、改めて機材を揃えることにしたので、現行品はどれも高額になってしまいました。手も足も出ない状況です。そればかりか、リモコン操作やマイコン制御が進化した反面、外観などシンプル過ぎて、魅力的なものばかりになってしまいました。そこで、かつて憧れていた70年代のオーディオ機器を中心に集めてみることにしました。また資金の確保も趣味を継続する上で重要な観点であることから、基本戦略として、新品定価の10%の費用で楽しむことを趣意としております(裏を返せばこのラインを守れば総額の上限はないという、誠に都合の良い考えではありませんが...)。その結果、2016年で大小400機種ほど手に入れましたが、半数は期待外れや作動不良ですぐに手放しており、現有機器は約200台で、日々、機種を取り換えつつ楽しんでおります。

当方、オーディオで楽曲を楽しむこと以上に、機器そのものを視て、触つて、作動させること自体に魅力を感じております。したがって、仮に音を出さなくても、電源を入れたり、摘みを回したり、はたまたCDの出し入れや、レコードの回転、終いにはカウターの變化などを見ているだけでも楽しめます。回路図や回路基板があれば、こはん3バイはいけますー？

ということで、楽曲の名前や作者、はたまた演奏者が誰かといったことは興味の対象外で、レコードやCDに入っているライナーノーツもほとんど読むことはありません。聴く楽曲の分野では、ハードロックと現代音楽以外は、ジャズ、クラシックから演歌、民謡まで結構幅広く聴いております。要はサウンドとして楽しめるかがポイントになります。したがって、巷で名曲とか名演奏として珍重されているものであっても、SN比やダイナミックレンジなどサウンドそのものの質が納得できるレベルでないといくことはありません。まして、オーディオ機器が介在しないような生演奏は・・・

オーディオ機器の調達は、ネットオークションや大手中古店が中心ですが、中古品である以上、何等かのトラブルを抱えている機器もあり、そういった機材を修復するのも楽しみの一つとなっておりまして、3、4年前の機材では、メーカーでも修理を受け付けないことが多く、自力復興が前提となります。修理に際して回路図の入手もままならず、不良個所の特定や代替パーツの確保など苦勞することが多いのですが、難解なパズルを解くかのごとく、しごとく向き合っていると、そのうち打開策を思いつき、克服できることも結構あります。苦勞の末に音が出たり、機能復活となったときは、何ともいえない達成感を味わうことができます。これを体験すると、やみつきになって、次々にジャンク品漁りをしてしまいます。まあ、早い話、オーディオの趣味といっても狭義的には「オーディオ機器マニア」に属するのではないのでしょうか。



ご愛用の機器類の一部

オーディオ・コンサートのお知らせ

「第2回 われら自作派」開催

9月27日(土) アビスタホール

詳細は後日発表